

■ 特集「現場に生かす人間関係研究」

中学生に対する体験学習の取り組み（その2）

－アサーショングループワークを全校生徒に実施してみて－

楠本和彦

(南山大学人文学部心理人間学科)

高田和明・堀裕子

(愛知県江南市立西部中学校)

1. 予防的・開発的アプローチとしてのアサーショングループワーク

アサーション・トレーニングは、自分も相手も大切に自己表現のトレーニングである。自分の考えや気持ちなどを自分らしく、率直に、かつ、相手をも尊重して、表現することを目指す。平木（1990）によると、アサーション・トレーニングは「最初、行動療法の一環として、神経症者に自己の感情を表現する方法を教えるという形で始められたが、1970年代に入り、アメリカにおける人種差別撤廃運動、女性解放運動の高まりと共に、被差別的役割を取らされ続けて来た人々の人権回復と抑圧者の他者尊重の言動方法として、一般化された」。園田・中釜（2000）によると、アサーション・トレーニングはその後、多様な発展を遂げており、アメリカでは、アジア系移民、就職活動における面接試験を前にした求職者、援助職従事者、子どもを対象にしたアサーション・トレーニングや異文化適応の準備教育、攻撃的な人が他者尊重を体得することを目的としたアサーション・トレーニングなどが行われている。日本では、女性、学生、援助職従事者、企業人、留学生、家族対象のアサーション・トレーニングが実施されている。

近年、学校教育の場で、予防的・開発的カウンセリング、予防的・開発的アプローチが注目されつつある。予防的・開発的カウンセリングとは、予防的カウンセリングと開発的カウンセリングからの造語である。

予防的カウンセリング（preventive counseling）とは、問題の発生・悪化と防ぐこと、再適応を容易にすること、再発を防ぐことを目指したカウンセリングである。開発的カウンセリング（developmental counseling）とは、発達・成長の促進を目的にしたカウンセリングである。この両者は重なり合うところが

多いため、近年は「予防的・開発的」と両者を統合的に呼ぶことが増えてきている。一般的には予防的・開発的カウンセリングと称せられることが多いが、筆者（楠本）はこのアプローチがグループで行われることが一般的であり、有効であることから、一对一の個人カウンセリングを連想させるカウンセリングをいう言葉を避け、アプローチと呼んでいる。予防的・開発的アプローチとは、「事前に、あるいは日ごろから児童・生徒の心を耕し、発達を援助し、人間関係を豊かにしておくことで、個々人が葛藤を克服する力やスキルを身につけ、それを相互援助できる人間関係を構築しておく。それにより、心、発達、人間関係の問題発生・悪化を防ぐ可能性が高まり、再適応を容易にし、再発を予防すること」と定義できる。

中釜（2002）は開発的カウンセリングのねらいの一つにアサーション（自己表現）能力の開発を挙げ、アサーショングループワークの解説と実践例を記している。その中で、アサーショングループワークに関して、「参加者が目的意識をもって自発的に参加する大人のための『トレーニング』との違いを明確に、集団でやってみることを強調するため『グループワーク』という名前を採用した。子どもたちの興味を惹きつけるような楽しい内容であり、誰も傷つくことのない安全な遊びであること、価値観の押しつけにならないように伝えることを指針に、体験型の授業案として構成した」と、その目的や意図を記している。

2. 実践報告

2-1. 実施にいたるまで

今回の実践は、2004年2月に、江南市立西部中学校第2回学校保健委員会として行われた。同年度の2003年9月には、第1回学校保健委員会として、筆者（楠本）も関与し、全校生徒に対して情報カードを用いた問題解決実習『なぞの宝島』を実施している。その実践報告は、「体験学習実践研究」3号（高田・堀・楠本、2003）を参照されたい。

今回の実践は、前回の実践を受け、高田、堀、楠本が主に計画・立案し、同中学校の全教師協力の下に実施された。計画当初に堀から、生徒の状況を考えて、第2回学校保健委員会ではアサーション・トレーニングを実施したいとの打診があった。筆者はアサーション・トレーニングの体系的なトレーニングを受けたことがなかったため、当初はその案に消極的であったが、山口真人氏に相談したところ、『子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク』（園田・中釜、2000）を紹介された。『子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク』に掲載されているワーク（A-1、B-2）を基に、筆者が原案を立て、打ち合わせを高田、堀、楠本で行った。高田、堀の同意をえて、原案が決定した。その際、高田、堀から、前回同様保健委員の寸劇の実施すること、ワークで使うマンガを生徒が描くこと、小グループで自分たちの

アサーティブな言い方を寸劇で行ってみることが提案された。その後、電子メールを用いて、何度も手順、資料などの確認を行った。当日、最終確認を行った。

学校保健委員会の前日に、生徒達は【資料1】を記入した。この段階では、アサーションに関する事前学習を行わず、シートには、普段の自分の言い方を記入することにした。このような事前の取り組みを行ったのには、二つの目的がある。第一には、自分のコミュニケーション、自己表現に関する興味・関心を高め、学校保健委員会とのつながりを持たせたいということであった。第二には、普段の自分のコミュニケーション、自己表現とアサーティブな自己表現の違いを知的な理解に止まらず、自分自身のこととして明確化したいということであった。生徒は事前に記入した【資料1】のシートを持参し、学校保健委員会に参加した。

2-2. 第2回学校保健委員会の実施¹

(1)テーマ 上手に届けよう、自分の思い パート2

(2)目的

第1回学校保健委員会では、自分も相手も傷つけない言葉でコミュニケーションすることの大切さ、聴くこと・話すことの難しさを学んだ。

今回も南山大学楠本和彦を招き、第1回の学校保健委員会の実践を生かし、積み重ねたい。具体的内容については、人の話し方はその特徴によって大きく3つに分けることができることを理解し、自分の話し方についての気づきを深めるとともに、アサーション（自分の言いたいことをそれにふさわしい言い方で相手に伝える）を身につける出発点にしたい。そして、生徒自身の人間関係能力を育てる一助としたい。

(3)日時 平成16年2月25日（水）5・6限

(4)場所 体育館

(5)対象 全校生徒（315名）およびPTA役員および地区委員

(6)内容

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (6)-1. 学校保健委員会（全校で） | 13:20～15:30 |
| A 開会のことば（生徒保健委員会） | 13:25～13:26(入場13:20～) |
| B 学校長あいさつ | 13:26～13:30 |
| C 保健委員会の発表とグループワーク | 13:30～15:30 |
| * 導入の話（楠本）-5分 | |

¹ 2-2は堀が学校保健委員会の起案書として作成したものを楠本が加筆修正した。時刻、時間は予定である。実際には全体での寸劇の発表グループが多数であったため、時間を延長した。

- * 保健委員会生徒（女子）の寸劇1「あなたなら何と答える」
 - 【資料1】（事前に記入済）
 - （春子さんの場合、夏子さんの場合、秋子さんの場合）
 - * 「この人どんな人？」（楠本）【資料2】
 - 1) 個人記入 -10分
 - 2) グループ（生活班）でのわかちあい-10分
 - * 3つのタイプの説明（楠本）
 - 1) 各タイプ名前を決める-5分
 - 春子、夏子、秋子、それぞれに選んだ言葉の発表
 - 2) 楠本からの説明（「3つのタイプ」のプリント【資料3】を配布）-15分
 - * 確認のための寸劇2「あなたなら何と答える」
 - （保健委員会生徒、男子）5分
 - * 「上手に伝えよう 自分の気持ち」【資料4】
 - 1) 「上手に伝えよう 自分の気持ち」（3枚）
 - 説明および個人記入-10分
 - 2) グループ（生活班）でのわかちあい-10分
 - 3) グループでの寸劇
 - ・わかちあいで出たものの内、どれか一つを選んで寸劇の実施-5分
 - ・寸劇をやってみての感想の話し合い-5分
 - 4) 全体での寸劇-10分
 - 希望グループが発表（舞台発表）
 - D まとめ話（楠本）-5分
- (6)-2. 教室での実施 15:40~16:10
- A ふりかえり用紙記入【資料5】
 - 1) 合図により、ふりかえり用紙を各自1枚配布
 - 2) 個人記入のため、他の人と話さない。
 - B わかちあいの実施
 - 1) 教師から、わかちあいの意味、気をつけてほしいことを伝える。
 - ・ふりかえり用紙で、気づいたことを、お互いに伝え合うことによっ
て、自分ひとりでは気づかなかったことがわかり、気づきを広げ
ることができる
 - ・実習中は気づかなかった他の人の思いや気持ちを知ることができる
 - ・相手の言うことをよく聴く
 - 2) わかちあいの仕方
 - ・項目1と2について、書いていることを下に、全員が伝え合う。
 - ・その仕方はまず、Aさんが、自分について書いたことを話す。他の

人はAさんについて書いたことをAさんに伝える。全員がAさんについて話したら、B君に移る。先ほどと同じ要領で伝える。全員が自分のことについて気づいたことを話し、他のメンバーから自分のことについて聴く。

C 再度、個人記入

- 1) 「学校保健委員会全体の感想・思ったことを書いてください」の欄を記入する

3. 生徒の反応

図1にふりかえり用紙の項目1-(1)、(2)の集計結果を示す。集計は堀が行った。

【上手に届けよう、自分の思い パート2ふりかえり用紙より】

江南市立西部中学校
(平成16年2月25日実施)

①よく言えた(きけた) ②言えた(きけた)
③あまり言えなかった(きけた) ④言えなかった(きけた)

(人)

年 組	言いたいことが言えましたか				きくことができましたか				合 計
	①	②	③	④	①	②	③	④	
1の1男	3	7	7	0	0	9	8	0	17
1の1女	3	9	6	1	4	10	5	0	19
1の2男	6	9	4	0	0	14	5	0	19
1の2女	1	9	7	1	2	13	3	0	18
1の3男	2	9	6	1	2	10	6	0	18
1の3女	4	12	2	0	6	12	0	0	18
1年 計	19	55	32	3	14	68	27	0	109×2
	17.4%	50.5%	29.4%	2.7%	12.8%	62.4%	24.7%		
2の1男	5	10	4	2	7	7	5	2	21
2の1女	8	7	2	0	6	11	0	0	17
2の2男	4	11	5	0	7	10	3	0	20
2の2女	9	5	2	1	6	9	1	1	17
2の3男	5	10	4	1	3	11	6	0	20
2の3女	4	9	2	0	6	7	2	0	15
2年 計	35	52	19	4	35	55	17	3	110×2
	31.8%	47.3%	17.3%	3.6%	31.8%	50.0%	15.5%	2.7%	
3の1男	5	7	1	2	6	7	0	2	15
3の1女	6	4	2	4	5	8	1	2	16
3の2男	3	12	0	0	5	6	3	1	15
3の2女	5	10	3	0	7	10	1	0	18
3の3男	5	7	3	0	2	10	2	1	15
3の3女	5	10	2	0	7	9	1	0	17
3年 計	29	50	11	6	32	50	8	6	96×2
	30.2%	72.5%	11.5%	6.3%	63.7%	33.3%	8.3%	6.3%	
総 合 計	83	157	62	13	81	173	52	9	315
	26.3%	49.9%	19.7%	4.1%	25.7%	54.9%	16.5%	2.9%	

図1 ふりかえり用紙の集計結果

今回の実践に関する生徒の自由記述に関しては、【資料7】に示す。【資料7】はふりかえり用紙より、堀がまとめたものである。

4. 考察

4-1. 学校担当者の考察²

実際の学校保健委員会の様子は、「From保健室」を参考にされたい。【資料6】²

今回の実践の目的は、以下の2つであった。

①人の話し方は大きく3つに分けることができることを理解し、自分の話し方についての気付きを深めるとともに、アサーションを身に付ける出発点にすること。

②グループワークを実施することにより、話したり聞いたりする体験をし、人とのコミュニケーション能力を育てること。

そして、この2点について、生徒が記入したふりかえり用紙から評価したい。

①については、ふりかえり用紙の項目2や感想から、多くの生徒が3つのパターンについてきちんと理解できていることが分かる。また、自分の話し方についてもふり返り、今後の自分のあり方を考える感想がたくさんあった。【資料7】

②については、図1のふりかえりの統計から評価したい。第1回目の実践である「なぞの宝島」の時と比較すると、「あまり言えなかった・言えなかった」「あまりきけなかった・きけなかった」ともに高率であった（第1回目データ、総合計の%、言いたいことが言えましたか。①52.6%、②38.1%、③9.4%、④0.9%。聴くことができましたか。①50.0%、②32.3%、③6.0%、④0.3%）。これは今回の場合、発言する内容が自分の内面に関する意見であり、前回より言えなかったのではないかと推察する。

しかし、この結果が日常の様子に近い数字ではないかと感じた。

教師の感想からも、グループにより話し合いが上手くできたところと、できなかったところの差があり、これは日常のグループ活動と同じであったという声も聞いた。

反対に、わかちあいを通して、表情が晴れ晴れとした生徒も何人かいて、とても良い時間を持てたという教師の感想もあった。

全体的には、長時間であったにもかかわらず、生徒達は生き生きと楽しそうに取り組んでいた。

最後の寸劇は、予想以上に積極的に発表できた（12のグループ）。発表者の中には、普段集団からはずれるような生徒や特殊学級の生徒もおり、教師から驚きと喜びの声があがった。多少自己アピールを強調しすぎる発表もあった

² 堀による

が、それだけ生徒達は他から認められたい、認めて欲しいという気持ちが大き
いということを改めて感じた。そういう点から見ると、自己表現の場が与えら
れたことは、非常に良かったと思う。

最後に教師の感想から抜粋して、まとめとしたい。

- 生徒に考えさせたい内容が明確であり、それをやわらかく伝えるそのや
り方がとても勉強になった。
- 全校生徒が体育館で、グループで車座になって、わかちあいができると
いう本校（小規模校）ならではの点が良かった。生徒の心に響くテー
マの取り上げ方、寸劇による具体化、班でのわかちあいによる深化、講
師の先生による押さえ・解説、これからの生活への生かし方等々、一人
一人が心と体を健やかに成長させるための良い機会だった。

4-2. 総合考察

(1)企画・立案に関して —ニーズとの関連から—

体験学習を企画・立案する時、前提となり、企画の成否に影響をするのが、
学習者のニーズである。最もよいのは学習者である生徒に対して、ニーズ調査
を行い、その結果を基にして、企画・立案することである。今回は生徒に対す
るニーズ調査を行うことはしなかったが、日々当の生徒を接している教師から
のニーズを基盤に基本的な企画・立案が行われた。本来的には、担当者の一人
である筆者（楠本）にとっても経験の深い実習を行うことが望ましい。しかし、
今回は学校現場のニーズに沿うことが優先されるべきであると判断した。

アサーション・トレーニングに対する筆者の経験不足を減じることができた
とすれば、山口真人氏より紹介された『子どものためのアサーション（自己表
現）グループワーク』の実習の有効性によるものと考えられる。本書のアサー
ショングループワークのプログラムはあとがきにあるように、現場での実施、
検討を経たものであるため、学校現場へ適用しやすいものになっている。また、
このプログラムはグループワークとして実施できるよう立案されているため、
筆者が日常的に実践しているラボラトリーメソッドによる体験学習の経験を応
用しやすいものであった。

アサーショングループワークが学習者のニーズに即したものであることは、
生徒の感想【資料7】からもわかる。

★今までいっぱい言葉で考えることがありました。相手に傷つけられたり、傷
つけたりしたことがあります。今日、学校保健委員会で相手がこの場面でどう
いう事を話そうかと考えてくれると思うし、自分も考えることができるよう
になりそうなので、良かったと思う。（1年男子）

★今まで自分の意見がとおらず「ムスッ」とすることが少しあったかもしれない。これからは、自分だけでなく、相手の立場に立って考えられる、さわやかさんになれるように努力したい。今まで気付かなかったことが、気付けた気がする。(2年女子)

★毎日のように色々なことがあって、うまく伝えられないことが多い。頼み事も「やってよぉー」とかじゃなくて、「私、用事があるから今、できないの。だから頼んでも良い？」みたいに理由もつけて言ったりすればいいと思った。言い方によって、悪く聞こえたり、よく聞こえたりするから、気をつけたいと思った。(3年女子)

★私は今まで、誘いを断れない人の気持ちは、よく分からなかったけど、この学校保健委員会で、自分の意見を友だちに言えない人もいて事が分かった。これからは、相手のことも考えて行動したいと思った。(3年女子)

これらの生徒の感想には、日ごろから自分や他者のコミュニケーションに関して、その特徴にうすうす、あるいは明らかに気づいてはいたが、それを改善、変容することができないでいる生徒の姿が垣間見られる。中学生という時期は自己に対する意識が高まる。しかし、それに比して、気づいていることを変化・変容される力は充分には備わっていない。そのギャップが葛藤を生む。これらの生徒の感想から、今回の実践が生徒のニーズに沿っていたものであることが示されよう。

生徒の感想から、今回のワークを通して、自分のコミュニケーションや人間関係のありようを理解し、変化のきっかけ、ヒントをえたことがわかる。今回の実践はあくまできっかけ、ヒントの域を越えず、その変化・変容を確固としたものにするには、これからの日常での実践が必要である。日常での実践の必要性に対する気づきもある。

★たくさんの方が、前で発表していたけど、実際には、あんなにうまくいかないと思う。前に出た人も本当は、あんな風に言えないと思う。前に出ている人も体験・練習積み重ねが必要なんだなあとと思った。(1年女子)

【資料4】にある最初の二場面は、堀と保健委員とが相談して決めたオリジナルな場面設定である。オリジナルの二場面は、課題としては他のものよりも難しいと考えられるが、アサーティブな自己表現の必要性の高い場面であり、このような状況においてもアサーティブな自己表現ができる力をもってほしいとの学校担当者の願いが背景にある。この場面の設定は学校担当者のニーズを

基礎にしているが、それは中学生にとって日常で出会う可能性があり、かつ葛藤の高まる場面であることを考えれば、生徒達のニーズにも沿っていると考えられよう。

今回の実践が気づきを生み、変化・変容のきっかけ、道しるべとなり、以後の日常的な練習の中で、生徒のコミュニケーションや人間関係のありようにおいて、自己尊重・他者尊重の態度を実現する一助となったと考えられよう。

(2)ピアの力を感じることでできる構造

ピアとは仲間という意味である。ピアサポートという言葉、考えが近年注目されてきている。今回の実践はいくつかの点において、生徒がピアの力を感じることができたと思われる。

1) 保健委員の寸劇

保健委員の寸劇は、この実践が有効に機能するために大きな影響を及ぼしていた。【資料6】の写真からその寸劇の様子を垣間見することもできるだろう。保健委員の寸劇を他の生徒は関心を持って見聞していた。時には歓声、笑い声を上げながら、自分たちの仲間が演じる寸劇を楽しんでいた。単に楽しむだけでなく、寸劇の内容、テーマに関心を寄せ、理解しようとしていた。【資料7】から、そのことを示す生徒の感想を取り上げる。

★今日は、思い切り言えた（教室の時）ので、心がスカーとしました。劇もおもしろかったし、自己主張、メッセージは大切だなあと実感しました。（1年女子）

★劇がしっかりできていて、とてもわかりやすかった。自分の思いを相手に伝えることは難しいと思うけど、素直に思ったことを言えば、相手に伝わると思う。（3年男子）

仲間がこの実践に関与している、積極的に取り組んでいるとの受け取りは生徒に大きな影響を及ぼす。このような場面がなく、外部者である講師の講演や実習だけでは、生徒はやらされ感を持ち、受身になる危険性が高まる。寸劇があったおかげで、この実践に関して生徒達の主体性、自主性が高まり、体験学習にとって重要な要素である、学習者の主体的学習、相互援助的学習（柳原、1976）の要素が保障されたと考えられる。そして、この要因が最後の全体での寸劇発表で、多数のグループが自主的に参加し、発表したことにもつながっていると推測される。

2) 学習素材の生徒の作成

【資料1】、【資料4】にあるマンガによる学習素材に関して、既成のもの

をそのまま使うのではなく、同校の生徒が描いたものを使用したことも、ピアの力を感じる一要因になったと考えられる。【資料1】と【資料4】の三つ目のマンガは『子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク』のp126、127の「さわやかさんで言ってみよう」＜友達編＞、＜家族編＞を堀と保健委員とが相談し、中学生により適する状況に修正し、生徒がマンガを描いた。先にも述べたように、【資料4】の他の二つの場面は、堀と保健委員とが相談して決めたオリジナルな場面設定である。このような学校担当者と保健委員との話し合い、資料の作成により、生徒達にとっては、場面設定がより日常に近いものになり、関心を高める効果をもたらしたと考えられる。

3) 小グループでの話し合い、寸劇の実施

小グループでの話し合い、寸劇の実施も仲間の存在に目を向け、ピアの力を感じる要因となったと考えられる。【資料7】から、そのことを示す生徒の感想を取り上げる。

★他の班の発表は、とても楽しかったし上手だった。マンガのふき出しに自分なりの考えを入れるのは、むずかしかった。いろいろな人の意見を聞くのは、勉強になったし、楽しくてまたやってみたいと思った。これからは、ちゃんと自分の思いを相手に届けたい。(1年男子)

★人によって、いろいろな伝え方があったことがわかった。素直に言った方が人に伝わりやすいことがわかった。これからはちゃんと自分の思いを伝えようと思った。(2年男子)

★一つの会話でも、人によって言うことが、全然違うから、こんな言い方もあるんだなと勉強になった。今まで言ってきたことを反省した。(3年女子)

これらの感想から他者尊重の基盤となる、人それぞれの違い、多様性への気づきが認められる。この多様性に気づくことから、自己尊重、他者尊重という次のステップが始まる。そして、多様性に気づくだけに止まらず、その違いを認める自己尊重、他者尊重の感覚も記されている。

★今まで誘われたら、「えー、でも」とか「うーん」とか優柔不断な態度をとっていた私でしたが、今日からさわやかさんタイプで笑顔で対応しようと思った。班の人の性格や本音が、よく分かった。やっぱり自分の思いは、すごく大切だ。(1年女子)

★今日の学校保健委員会で、私は、人と人との関わり方や、意見の出し方など

学びました。人としゃべる時は、とりあえず、相手の意見を聞いて、自分の考えと比べて、良い答えを出すべきだと思いました。話し合いで、お互い思っていることが言えて良かったと思いました。(1年女子)

★班で人間のタイプについて話し合いができて、友情を深めることができて良かった。「シカトしよ」という会話、日常生活でよくあることだと思った。その時自分ならどうするかと考えた時、やっぱり完璧なさわやかタイプの仲間には入れないような気がした。それで、思ったことは、「シカトしよ」と言う前に、その相手のことをしっかり考えてからにすべき。(2年女子)

★毎日会っているけど、こんなにふれあったことがなかったので、楽しかった。意外にみんな話しやすかった。みんなの気持ちも聞けて良かった。みんなもちゃんと聞いてくれたし、私のことも見てくれていた。(2年女子)

ジョハリの窓の理論では、自己開示とフィードバックが開放の領域を広げ、自己成長につながると考える。これらの感想から、自己開示とフィードバックがグループの中で行われていたことが推察される。また、仲間との関係の深まりが感じ取れる。今回の実践を通して、仲間とより深く話し合い、自己開示やフィードバックを行えたことがわかる。相互の自己開示により、他者理解を深めることができた。また、フィードバックができる安心感のある雰囲気の中で、自己理解も深まっていることがわかる。そのような相互援助、相互啓発的な関係が生まれ始めていることが感じられる。

★改めて、この班の積極性のなさが分かった。班長はがんばっているけど、少し足りない。不安がつのって、つのって・・・でも他の人も注意しあえば、なんとかなりそうなので、残り少ない日々を楽しく過ごしたい。(1年女子)

★私は、どちらかというと、自分の思いを伝えられる方だと思うので、今日得たものを生かし、より上手く伝えられるようにしたい。また、自分の思いを伝えられることが苦手な人と話す時は、伝えられるように促す話し方にもトライしたいと思った。伝えることよりも難しそうだけど、やってみたい。(3年女子)

お互いのよい面に気づくことも重要ではあるが、それだけに止まると、体験学習の学びが浅くなる危険性もある。その段階を越え、自分たちのグループの問題に気づき、他者の力を信頼し、問題解決のために自分達ができることを見出している。また、自分の長所に気づくに止まらず、自分のコミュニケーションをよりよくするための課題を発見している。問題や課題に気づき、それを指

摘し、分析、仮説化していくことが体験学習の重要な点である。そのような学習過程に関連する気づきとして、重要な感想であると考えられる。

以上三点にわたって、ピアの力を感じることでできる構造について見てきた。先にも少し触れたが、体験学習では、学習者の主体的学習、相互援助的学習（柳原、1976）が重要なポイントとなる。ピアの力を感じることでできるということは、体験学習の学習環境として重要な点である。それは、自分が主体的に学び、さらにはお互いがお互いを援助する関係の中で、体験から学ぶことができる、学習環境である。このような学習環境が生まれたことは、今回の実践をより効果的なものしたと考えられる。

しかし、今回の実践において、体験学習として不十分であり、より適切な配慮を必要とする点も見られる。4-1にある学校担当者の言葉を引用する。

第1回目の実践である「なぞの宝島」の時と比較すると、「あまり言えなかった・言えなかった」「あまりきけなかった・きけなかった」ともに高率であった（第1回目データ、総合計の%、言いたいことが言えましたか。①52.6%、②38.1%、③9.4%、④0.9%。聴くことができましたか。①50.0%、②32.3%、③6.0%、④0.3%）。これは今回の場合、発言する内容が自分の内面に関する意見であり、前回より言えなかったのではないかと推察する。

しかし、この結果が日常の様子に近い数字ではないかと感じた。

教師の感想からも、グループにより話し合いが上手くできたところと、できなかったところの差があり、これは日常のグループ活動と同じであったという声も聞いた。

ここに指摘されていることは今回の実践の反省として、今後活かす必要のあることである。

グループの話し合いにおいて、言うこと、きくことが充分であった割合が前回よりも低くなっていることは、学校担当者の考察にもあるように、一つには実習内容の違いによる。「なぞの宝島」は実習の中に自分のもつ情報を伝えるという行為があり、自分が話せ、それを相手に聴いてもらうことが可能となる構造が内在している。また、実習中に話し合う内容も自分自身の気持ちやありようではなく、課題解決のための考えやアイデアが中心となる。ふりかえりの結果や教師の感想にある話し合いが充分でなかったことの要因の一つはこのような課題の差、難易度の要因がある。

しかし、体験学習の実践において、グループ、個人の間関係上の状況が普段と同じでは、体験学習を実践する意味が減じられるとも言える。体験学習は普段とは違う場面設定により、普段とは違うグループ、関係、個人の状況を生み出しやすい側面がある。それが体験学習を実施する一つの意義である。もち

ろん、普段と同じであっても、それをふりかえり、わかちあいを通して、気づき、自分たちの課題を明確にし、日常に活かすことができれば、体験学習を実施した意味はある、ということもできる。今回の実践において、日常的なパターンを越える新たな状況を生み出すことや日常の状況を丁寧にふりかえることに対して、十分に丁寧な配慮がいきわたっていたかを問い直す必要がある。そして、それを今後の実践に反映させていくことが肝要である。

(3) 予防的・開発的アプローチの観点から

1) アサーティブな考え方、主張の仕方に関して

今回の目的である、アサーティブな主張の仕方、その基礎となる考え方について、生徒達は気づき、学ぶところがあったようである。以下に【資料7】より生徒の感想を取り上げる。

★こうした何気ない会話でも、友だち関係がくずれてしまう。そんな時に、どうしたらいいか？なんていうのも答えがない。すべてを自分中心に考えようとすると、うまくいかないから、自分のことは少し控えて相手のことも考えようと思った。(2年男子)

★どんな時も人が傷つかないようにしなければと思った。しかし、自分の意見が言えなければ意味がないと思う。このことを学ぶことができて本当に良かった。(3年女子)

★すごく勉強になった。これから、おどおどしたタイプでなく自分を大切に、人も大切にする。自己を見つめて、相手も尊重する、平等な人間になりたいです。さらに力をつけていくために、色々な人と話すことができたら素晴らしいと思う(3年女子)

これらの感想から、アサーショングループワークの基礎的な考えである自己尊重、他者尊重を理解し、それを自分のこれからの課題にしようとする生徒の姿勢が感じられる。自分のタイプを理解するとともに、今回の実践で知的に、体験的に知ったアサーティブなあり方と比較して、アサーティブな生き方を目指そうとするものであると言える。このような姿勢は、他の項で取り上げた生徒の感想にも多数表現されている。

★私は、気づかなかったけど、いばりやさんタイプだったと思う。どちらかというと相手が、おどおどさんタイプの時が多いから、いろいろなことを私が決めてしまったけど、これからは、相手の意見も聞く行動にうつしたい。みんな

は、自分の意見をはっきり言っていたとほめてくれたけど、今後は真剣に話を聞いてくれたと言われたら、うれしい。(2年女子)

★私はおどおどタイプで、あまりはっきりしていなかったから、それが誤解になっていたりしたから、これからは、自分の気持ちも相手の気持ちもしっかり言ったり、聞いたりしたいと思った。しっかり言わないと、相手に伝わらないことが分かった。(2年女子)

★楠本先生の「わからないということを、恥ずかしがるな！」が特に印象に残った。(3年男子)

★今日は、自分のことについて色々考えさせられた。遊びの断り方一つでも、いろいろな言い方があり、それで自分の思いがうまく伝わるものや伝わらないものがあるって、自分だったらどうだろうなあとか考えることができました。最後は思いっきり笑えたり、楽しかったです。(3年女子)

ここには、アサーショングループワークのスキルに関する気づきが見られる。アサーショングループワークのスキルを理解し、実際の言動に活かしていくことは、アサーショングループワークが日常に般化していく上で重要な側面である。このようなスキルレベルでの気づきも他の項で取り上げた生徒の感想にも多数表現されている。

★私はおどおどタイプだったけど、他から見ると「うらぎりもの」や「最悪な子」と思われていることがわかった。自分でも、うすうす思っていたけど、こんなに嫌な気分になるということを知ったので、これからは、さわやかタイプに近づけるようにしたいです。(1年女子)

★僕は、できればさわやかタイプにしたいけど、今までの自分を急に変えるのは無理だし、全てかえるということも自分じゃないふうになってしまうからいやだ。(2年男子)

このような感想を読むと、筆者がアサーショングループワークの意味や要点をうまく伝えきれず、生徒に誤解を与えてしまったのではないかとの危惧を持ち、心苦しく思う。おどおどさん(ノン・アサーティブ)の説明の中で、「うらぎりもの」、「最悪の子」という否定的で、侵襲的な言葉を使った覚えはないが、この生徒がそのように受け取ったのも事実である。そのような受け取りが生徒の自己像を必要以上に傷つけ、自己尊重というアサーショングループワークの基礎となる考え方の理解を阻害しなかったかの危惧が残る。また、「自分

を急に変えるのは無理」、「自分じゃないふうになってしまうからいやだ」との言葉も同様に、アサーショングループワークの本質と自己への緩やかな適用を筆者が十分に伝えきれず、誤解を与えてしまった危惧を感じた。筆者の反省すべき点であり、丁寧なフォローアップの必要性を感じさせられる、生徒の感想である。

上記の問題点、また、4-1の「教師の感想からも、グループにより話し合いが上手くできたところと、できなかったところの差があり、これは日常のグループ活動と同じであったという声も聞いた」という体験学習として不十分であった点は反省すべきであることを前提に、今回の実践の積極的な意味を考える。1で述べたように、アサーショングループワークは予防的・開発的アプローチの一つである。上述した生徒の感想から判断すると、今回の実践が、多くの生徒にとって、心理的・人間関係的な発達・成長を促すという開発的アプローチとして有効であったことも事実であろう。自己理解、他者理解が深まり、信頼を基盤とした相互援助・相互啓発的な雰囲気成熟、視点の獲得の一助となったと思われる。このような取り組みがきっかけ、ヒント、刺激剤となり、日常の学級経営や人間関係に成長促進的な効果を少しでももたらすことがあったとすれば、学校保健委員会という場で体験学習を実施した意味があったと言えるのではなかろうか。

2) 予防的意味に関して

1) で、予防的・開発的アプローチの開発的側面について、アサーティブな考え方、主張の仕方に関して取り上げた。次に予防的側面について考えていきたい。以下に【資料7】より生徒の感想を取り上げる。

★ぼくは、今までおとなしいタイプだったので、けっこう変なことを言われていました。だけどこれからは、教えてもらったさわやかタイプにきりかえて、友だちともっと仲良くなっていきたいと思った。(1年男子)

★このような会をこれからもたくさんやっていけば、いじめのようなことがなくなると思った。友だちの良いところを見ることができるから良いと思った。(1年男子)

★上手に自分の思いを伝えることができれば、友だち関係も広がっていくだろうと思った。(2年男子)

予防的・開発的アプローチにおける予防的側面には、問題の発生・悪化と防

ぐという意味がある。上記の生徒の感想からは、「変なことを言われる」、「いじめ」、「友達関係が広がる」との言葉が見られる。それらの言葉からは、今回の実践が自分たちの心理的・人間関係的な問題に対して、一定の効果を期待する生徒の思いが伝わってくる。このような感想は他の項で取り上げた生徒の感想の中にも散見される。今回の実践が確かに、直接的に、予防的効果があるかは検証が困難であるため、実証するにはいたらない。しかし、このような感想から、生徒の人間関係における現状の一部が垣間見られるとともに、その解決を願う訴えが聞こえてくる。この感想を取り上げたのが学校担当者であることを考えれば、このような生徒の思いが無視されず、学校担当者に届いていることがわかる。学校担当者にとって、耳障りのよい感想だけを取り上げるのではなく、このような声をきちんと把握していこうとする学校担当者の姿勢が感じられる。実施の一人である筆者にとっては、学校保健委員会での取り組みが、生徒の日常へのより効果的な予防的アプローチとなるよう実施する責任に、直面させられる思いがする。

<付記>

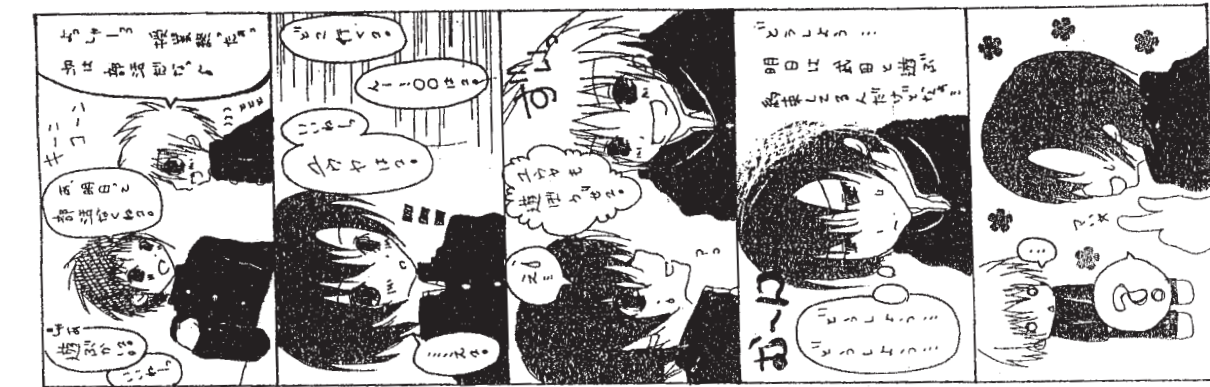
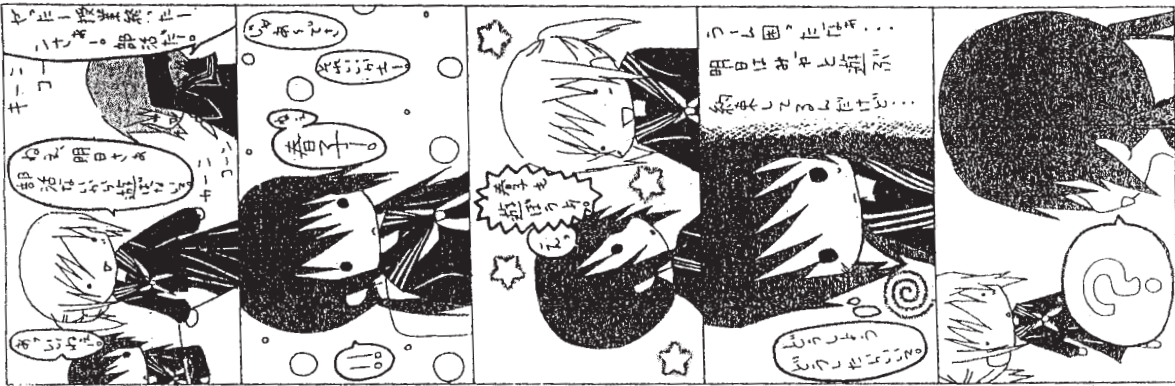
本文および脚注に明示した項、部分以外は楠本が執筆を担当した。当日使用した資料は学校担当者と楠本が協議し作成した。【資料3】は『子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク』、『アサーション・トレーニング』（平木典子、1993）を参考、引用し、楠本が作成した。本稿は学校担当者が原稿を確認した上で掲載されているが、文責はすべて楠本にある。

引用文献：

- 平木典子（1990）：自己主張訓練. 國分康孝編. カウンセリング辞典. 誠信書房.
- 平木典子（1993）：アサーション・トレーニング ―さわやかに自己表現> のために―. 日本・精神技術研究所.
- 中釜洋子（2002）：開発的カウンセリング ―学級経営に生かすカウンセリング的手法. 一丸藤太郎・菅野信夫編著. 学校教育相談. MINERVA教職講座 10. ミネルヴァ書房.
- 園田雅代・中釜洋子（2000）：子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク ―自分も相手も大切にする学級づくり―. 日精研心理臨床センター編. 日本・精神技術研究所.
- 高田和明・堀裕子・楠本和彦（2003）：中学生に対する体験学習の取り組み ―問題解決実習を全校生徒に実施してみよう―. 津村俊充・楠本和彦編. 体験学習実践研究. 3. 体験学習研究会.
- 柳原光監修（1976）：Creative O. D. 人間のための組織開発シリーズ. I. 行動科学実践研究会. プレスタイム.

「あなたなら何と答える？」

年 組 番 氏名 ()



男子はこちら
↓

女子はこちら
↓

? に言葉を入れよう

? に言葉を入れよう

Blank lined speech bubble for male response.

Blank lined speech bubble for female response.

(絵: 201 山村)

(絵: 302 浅野)

【資料1】

【資料2】

「この人どんな人？」

年 組 番 氏名

- 1 春子さん・夏子さん・秋さんは、どんな話し方の特徴をしていましたか？
3人それぞれの話し方について、思うこと、感じたことを下の言葉を参考にご書いてください。

春子さん

夏子さん

秋子さん

ひかえめでおとなしい	いじわる	自分も相手も大事にする
はっきりしない	はきはきしている	さわやか
いばっている	いじけている	わがまま
自分の気持ちを大切に	相手の気持ちを大切に	

【資料3】

西部中学校・学校保健委員会
「上手に届けよう、自分の思い パート2」
2004.2.25.

コミュニケーションの3つのスタイル

☆ _____ さん

◎ **相手を大切にしようとするが、自分の気持ちや意見を大切にしないスタイル**

<影響>

- 自分の気持ち、意見をあいまいにしか言わないので、相手から誤解されやすい
- 相手の意見に流されやすい

<原因>

- 自分に自信がもてない
- 自分を後回しにして、周りの人のことばかりを考えてしまう

☆ _____ さん

◎ **自分の考えや意見が唯一絶対的に正しくて、相手の気持ちはあまり重要でないか、間違っていると決めつけて、相手を大切にしないスタイル**

<影響>

- 相手は自分を否定されたような気持ちや嫌な気持ちになりやすい
- 相手は、その人から離れていたい、逃げ出したいと感じやすい

<原因>

- 自分の方が絶対に正しいという思い込み
- なめられてはいけないというような思い
- ずっとがまんしていたものが切れて、いきなりふき出すような時

☆ _____ さん

◎ **自分も相手を大切に自己表現のスタイル**

<影響>

- 自分も大切、相手も大切という感覚が身につく
- 自分も大切、相手も大切という感覚が相手に伝わりやすい
- お互いの信頼感が育ちやすい

<基礎>

○ **自己信頼**

「私には失敗や短所などもあるが、それをひっくめてこの自分を私なりに大切にしていこう。この世に私という人間は一人だし、他にとって替わることでないかけがえのない存在なのだから。私は私なのだから」

○ **相互信頼**

「私は私なりに自分の言いたいことをあなたに伝えていくし、あなたもどうぞそうしてください。あなたから出てくる表現や戻ってくるものをまた私なりに大切に、やりとりを重ねていこうと思います」

<コツ>

○ **I（わたし）メッセージを使う**

- ・自分を主語にして、自分の気持ちや考えをわかりやすく伝える
- ・迷っている気持ちや矛盾した気持ちも、Iメッセージで伝えると伝えやすくなる

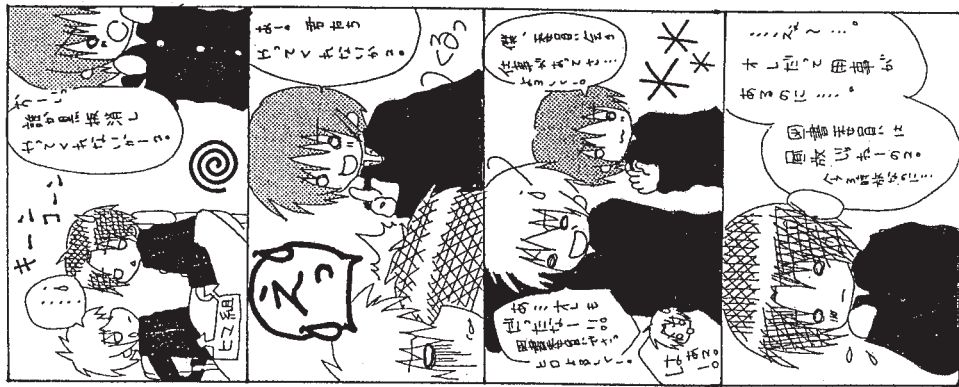
○ **「わからない」「もう少し時間がほしい」などと言う**

- ・「わからない」ということを恥ずかしくない。
- ・「もう少し考える時間がほしい」と頼んだ方が、自分の意見に自分なりの責任と自信がもてる

○ **体験、練習の積み重ね**

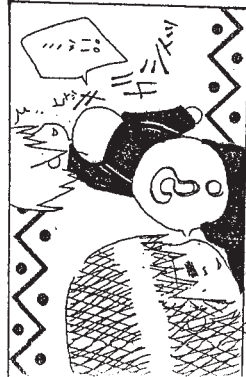
「上手に伝えよう 自分の気持ち」

年 組 番 氏名 ()



? に言葉を入れよう

A large speech bubble containing several horizontal lines for writing.

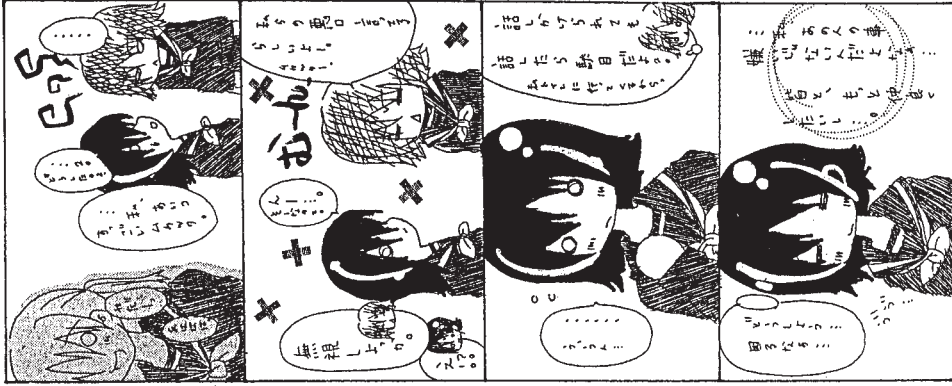


(絵 201 4対)

「上手に伝えよう 自分の気持ち」

【資料4】

年 組 番 氏名 ()



? に言葉を入れよう

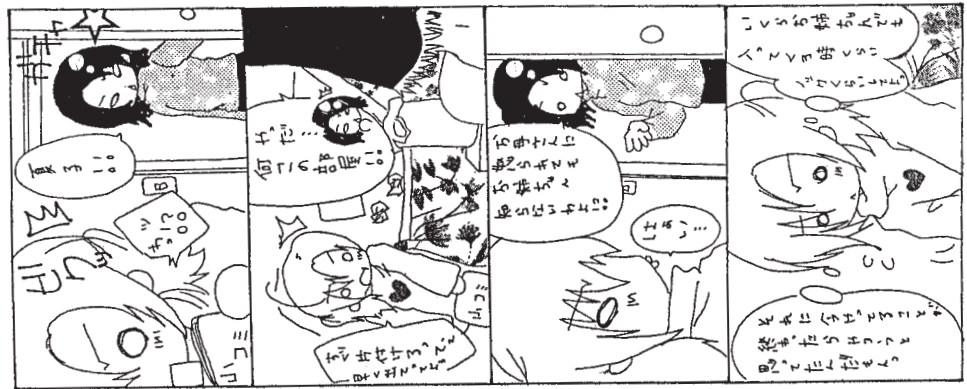
A large speech bubble containing several horizontal lines for writing.



(絵 201 4対)

「上手に伝えよう 自分の気持ち」

年 組 番 氏名 ()



？ に言葉を入れよう



(森 201 山村)

【資料5】

上手にとどけよう，自分の思い パート2 ふりかえり用紙

2004. 2. 25.

____年 ____組 名前_____

1 グループでの話し合いの様子を思い出して，次の質問に答えてください。当てはまる番号に○をつけたり，思ったことを自由に書いてください。

(1) あなたは，どれくらい言いたいことが言えましたか？

- ①よく言えた ②言えた ③あまり言えなかった ④言えなかった

(2) あなたは，どれくらい人の言うことをきくことができましたか？

- ①よくきけた ②きけた ③あまりきけなかった ④きけなかった

(3) 自分や班の人の「いいなあ」と思った行動や言葉を最低一つは思い出してみよう。

自 分	

2 あなたは，いままで，どのタイプの話し方でしたか？

あてはまるタイプに○をつけ，（ ）の中に思ったことを書いてください。

私は，今までどちらかというと（ ）タイプでした。

これからは，（ ）しようと思います。

3 学校保健委員会全体の感想、思ったことを書いてください。

From保健室 3月

江南市立西部中学校

発行日 平成16年3月1日

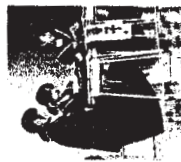
南山大学助教授 橋本和彦先生より コミュニケーションの3つのスタイルを学びました



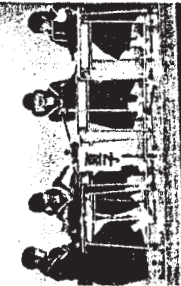
【資料6】

学校保健委員会「上手に届けよう、自分の思い パート2」

「明日さあ部活ないから、遊ばない？」
・・・困ったなあ。明日はみかたと遊ぶ約束してただけど・・・でも断るの悪いし・・・」



【春子さん】
「うん。いいよ」



【夏子さん】
「明日は、だめ！」
「うるさいなあ！しつこいなあ！」



【秋子さん】
「みかたと遊ぶ約束してただけど、みかともいいかなあ？」

そのコツ
① 「わたし」メッセージを使う・・・そうすると、迷っていることも伝えられる。自分を主語にして、気持ちや考えを伝える。
② 「わからない」「もう少し時間がほしい」などと言う
③ 体験、練習の積み重ね
心がけて言ってみると、だんだんできるようになる。
考え方の基礎

☆ 自己信頼

私には失敗や短所などもあるが、それをひっくりかえして、自分を大切にすれば、私という人間は、かけがえのない存在なのだから。

☆ 相互信頼

私は私なりに自分の言いたいことをあなたに伝えていくし、あなたもどうぞそうしてください。

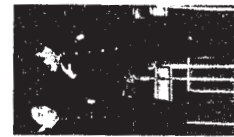
春子さんは、相手の気持ちを大切にしているけど、自分の気持ちをつぶしている。

夏子さんは、言い方がきつい。わがまま。いいわるな感じだよ。

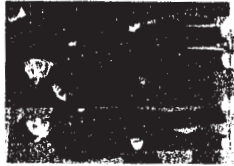
秋子さんは、お互いの気持ちを大切にしているね。はつきりしている。さわやかだね。



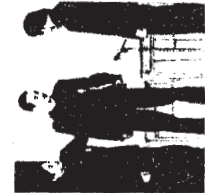
自分に自信がないからおどさんになつちやうのかなあ



・相手から誤解されやすい。
・流されやすい。



・相手が嫌な気持ちになりやすい。
・相手が逃げ出したくなる。



・自分も大切、相手も大切。
・お互いの信頼感が育ちやすい。

3つのスタイルをもう一度確認しよう。

PTA 会長 中村さん

これから新しい出会いが待っています。新しい友・先輩・先生など。お互いを大切にしていっていい中で、いかにうまく自分を大切にしていっていかかが大切。そういうことによって、素晴らしい人間関係を築いてほしい。

これから、みなさんに素晴らしい出会いがあり、素晴らしい人間関係が築けることを願っています。

続きは裏へ ↓



【資料7】 学校保健委員会 生徒の感想

★ぼくは、今までおとなしいタイプだったので、けっこう変なことを言われていました。だけどこれからは、教えてもらったさわやかタイプにきりかえて、友だちともっと仲良くなっていきたいと思った。（1年男子）

★このような会をこれからもたくさんやっていけば、いじめのようなことがなくなると思った。友だちの良いところを見ることができるから良いと思った。（1年男子）

★私はおどおどタイプだったけど、他から見ると「うらぎりもの」や「最悪な子」と思われていることがわかった。自分でも、うすうす思っていたけど、こんなに嫌な気分になるということを知ったので、これからは、さわやかタイプに近づけるようにしたいです。

（1年女子）

★今まで誘われたら、「えー、でも」とか「うーん」とか優柔不断な態度をとっていた私でしたが、今日からさわやかさんタイプで笑顔で対応しようと思った。班の人の性格や本音が、よく分かった。やっぱり自分の思いは、すごく大切だ。（1年女子）

★改めて、この班の積極性のなさが分かった。班長はがんばっているけど、少し足りない。不安がつのって、つのって・・・でも他の人も注意しさえすれば、なんとかかなりそうなので、残り少ない日々を楽しく過ごしたい。（1年女子）

★たくさんの方が、前で発表していたけど、実際には、あんなにうまくいかないと思う。前に出た人も本当は、あんな風に言えないと思う。前に出ている人も体験・練習積み重ねが必要なんだなあと思った。（1年女子）

★今日は、思い切り言えた（教室の時）ので、心がスカーとしました。劇もおもしろかったし、自己主張、1メッセージは大切だなあと実感しました。（1年女子）

★今日の学校保健委員会で、私は、人と人との関わり方や、意見の出し方など学びました。人としゃべる時は、とりあえず、相手の意見を聞いて、自分の考えと比べて、良い答えを出すべきだと思います。話し合いで、お互い思っていることが言えて良かったと思いました。

（1年女子）

★今までいっぱい言葉で考えることがありました。相手に傷つけられたり、傷つけたりしたことがあります。今日、学校保健委員会で相手がこの場でどういう事を話そうかと考えてくれると思うし、自分も考えることができるようになりそうなので、良かったと思う。

（1年男子）

★他の班の発表は、とても楽しかったし上手だった。マンガのふき出しに自分なりの考えを入れるのは、むずかしかった。いろんな人の意見を聞くのは、勉強になったし、楽しくてまたやってみたいと思った。これからは、ちゃんと自分の思いを相手に届けたい。（1年男子）

★僕は、できればさわやかタイプにしたいけど、今までの自分を急に変えるのは無理だし、全てかえるというのも自分じゃないふうになってしまうからいやだ。（2年男子）

★こうした何気ない会話でも、友だち関係がくずれてしまう。そんな時に、どうしたらいいか？なんていうのも答えがない。すべてを自分中心に考えようとする、うまくいかないから、自分のことは少し控えて相手のことも考えようと思った。（2年男子）

★私は、気づかなかったけど、いばりやさんタイプだったと思う。どちらかというと相手が、おどさんタイプの時が多いから、いろいろなことを私が決めてしまったけど、これからは、相手の意見も聞く行動にうつしたい。みんなは、自分の意見をはっきり言っていたとほめてくれたけど、今後は真剣に話を聞いてくれたと言われたら、うれしい。（2年女子）

★今まで自分の意見がとおらず「ムスッ」とすることが少しあったかもしれない。これからは、自分だけでなく、相手の立場に立って考えられる、さわやかさんになれるように努力したい。今まで気付かなかったことが、気付けた気がする。（2年女子）

★私はおどおどタイプで、あまりはっきりしていなかったから、それが誤解になっていたりしたから、これからは、自分の気持ちも相手の気持ちもしっかり言ったり、聞いたりしたいと思った。しっかり言わないと、相手に伝わらないことが分かった。（2年女子）

★人によって、いろいろな伝え方があることがわかった。素直に言った方が人に伝わりやすいことがわかった。これからはちゃんと自分の思いを伝えようと思った。（2年男子）

★上手に自分の思いを伝えることができれば、友だち関係も広がっていくだろうと思った。（2年男子）

★班で人間のタイプについて話し合いができて、友情を深めることができて良かった。「シカトしよ」という会話、日常生活でよくあることだと思った。その時自分ならどうするかと考えた時、やっぱり完璧なさわやかタイプの仲間には入れないような気がした。それで、思ったことは、「シカトしよ」と言う前に、その相手のことをしっかり考えてからにすべき。（2年女子）

★毎日会っているけど、こんなにふれあったことがなかったから、楽しかった。意外にみんな話しやすかった。みんなの気持ちも聞いて良かった。みんなもちゃんと聞いてくれたし、私のことも見てくれていた。（2年女子）

★私は、けっこう夏子さんタイプだと思った。自分のことばかりで、あまり相手のことを考えられず、嫌な言い方をしたり、自分の思っていることをうまく伝えられずに相手を傷つけたり。でも、今日の学校保健委員会で、自分が少し考えれば相手のことを傷つけない伝え方もあるんだとわかった。自分の意見もちゃんと言い、相手の意見も取り入れていける生活が一番理想だと思った。今の自分を見直して行動できたら、私も秋子さんになれると思った。（2年女子）

★劇がしっかりできていて、とてもわかりやすかった。自分の思いを相手に伝えることは難しいと思うけど、素直に思ったことを言えば、相手に伝わると思う。（3年男子）

★楠本先生の「わからないということ、恥ずかしがるな！」が特に印象に残った。（3年男子）

★毎日のように色々なことがあって、うまく伝えられないことが多い。頼み事も「やってよおー」とかじゃなくて、「私、用事があるから今、できないの。だから頼んでも良い？」みたいに理由もつけて言ったりすればいいと思った。言い方によって、悪く聞こえたり、よく聞こえたりするから、気をつけたいと思った。（3年女子）

★私は今まで、誘いを断れない人の気持ちは、よく分からなかったけど、この学校保健委員会で、自分の意見を友だちに言えない人もいるって事が分かった。これからは、相手のことも考えて行動したいと思った。（3年女子）

★一つの会話でも、人によって言うことが、全然違うから、こんな言い方もあるんだなと勉強になった。今まで言ってきたことを反省した。（3年女子）

★私は、どちらかというと、自分の思いを伝えられる方だと思うので、今日得たものを生かし、より上手く伝えられるようにしたい。また、自分の思いを伝えられることが苦手な人と話す時は、伝えられるように促す話し方にもトライしたいと思った。伝えることよりも難しそうだけど、やってみたい。（3年女子）

★どんな時も人が傷つかないようにしなければと思った。しかし、自分の意見が言えなければ意味

がないと思う。このことを学ぶことができ本当に良かった。(3年女子)

★人それぞれ性格があって、いろんなタイプがあるんだなあと思った。やっぱり、ハキハキしていた、思いやりのある人は、見ているとさわやかだと思った。逆にキツイ言い方だと見ても不快だし、良くないと思う。自分の意見がハッキリ言えないのも流されやすくて危険だと思った。自分もはっきりと物事を言えるようにする。(3年女子)

★今日は、自分のことについて色々考えさせられた。遊びの断り方一つでも、いろいろな言い方があり、それで自分の思いがうまく伝わるものや伝わらないものがあった、自分だったらどうだろうなあとか考えることができました。最後は思いっきり笑えたし、楽しかったです。(3年女子)

★すごく勉強になった。これから、おどおどしたタイプでなく自分を大切に、人も大切にする。自己を見つめて、相手も尊重する、平等な人間になりたいです。さらに力をつけていくために、色々な人と話すことができたなら素晴らしいと思う(3年女子)